

令和4年度

研修集録

《第30号》



秋田県立十和田高等学校

「十和田高校研究紀要」巻頭言

校 長 成 田 耕 治

かつての授業は「教師が教える」ものでしたが、現在は「生徒が学ぶ」という視点が求められ、学習指導要領の観点別評価の導入による「指導と評価の一体化」や、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実などの新しい教育スタイルへの変革がなされ、それに伴い新たな授業デザインの創造が必要となりました。さらに、ICTの進歩は目まぐるしく、教材として身近にあふれる新素材を瞬時に活用できるようになりました。昨今ではICT活用だけではなく、その先にあるデジタル・トランス・フォーメーション、いわゆるDX人材の育成も急務ともされています。

社会のあり方が劇的に変わるといわれる「Society5.0」の到来と新型コロナウイルス感染症拡大など、「予測困難な時代」を見据えながらも、本校においては「教育は人づくり」という教育の原点をぶれなく重視してまいりました。また、心豊かに社会を力強く生き抜く力を、「基礎学力」「表現力」「探究力」と捉え、教育実践を重ねながらチーム十和田としてその成果を共有し、校内研修会等で研鑽に努めております。

この研究紀要は、本校教職員が取り組んだ研究・研修の一部を紹介するものであります。寄稿された職員並びに編集に当たられた皆さんの、ご協力とご尽力に感謝申し上げますとともに、本紀要がご覧いただく皆様の教育実践のヒントとなり、「生徒が社会で力強く生き抜く力」の育成の一助となることを祈念し、巻頭のことばといたします。

目 次

巻 頭 言

校 長 成 田 耕 治

1 校 外 研 修

初任者研修（高等学校）	田 畠 智香子 … 1
実践力指導力研修講座	石郷岡 茜 音 … 4
実践力指導力向上研修講座	寺 田 尚 志 … 5
高等学校信任学年主任研修講座	中 嶋 豊 … 7
高等学校道德教育推進研修講座	土 門 祐 子 … 8
「読む力」を高める国語科の授業づくり	虻 川 涼 香 … 9

2 校 内 研 修

授業研究会

学習指導案（現代社会）	岩 澤 利 哉 … 1 0
学習指導案（体育）	中 嶋 豊 … 1 2
	神 居 恵 悟 … 1 4
学習指導案（英語）	木 村 由 美 … 1 6
指導主事訪問全体会記録	… 1 8

ふるさと教育

国語科	藤 島 知 歩 … 2 3
地歴公民科	田 村 七 海 … 2 5
数学科	佐々木大輔, 寺田尚志 … 2 6
理科	櫻 庭 洋 … 2 7
保健体育科	神 居 恵 悟 … 2 8
芸術科	関 学 … 2 9
英語科	木 村 由 美 … 3 0
家庭科	能 島 直 美 … 3 1
商業科	渡 邊 一 郎 … 3 2

編 集 後 記

令和4年度 初任者研修（高等学校）

教諭 田畠 智香子

1 目的

教員としての心構えを身に付けるとともに、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての基礎的・基本的な指導力を養う。

2 校外研修について

	研 修 内 容	日 時
センターA 研修 Ⅰ	【開講式】 初任者への期待 ○教育公務員の服務 ○授業づくりの基本 ○授業で取り組む情報教育① ○学校組織の一員として①—組織原則の理解—	4/27
センターA 研修 Ⅱ	○学習指導要領の要点 ○教科指導の現状と課題 ○教科指導計画の作成	5/11
センターA 研修 Ⅲ	○教科における基本的な指導技術と授業展開 ○教科における評価の内容と方法 ○いじめ等の問題行動や不登校の理解	6/8
特別支援学校 訪問	○授業参観 ○研究協議 ○講話Ⅰ 進路学習 ○講話Ⅱ 発達障害の理解と対応	6/22
センターA 研修 Ⅳ	○安全教育と応急手当 ○教員のメンタルヘルス ○他者と共によりよく生きる力を育てる道徳教育 ○授業で取り組む情報教育②	8/4
センターA 研修 Ⅴ	○キャリア教育の充実 ○総合的な探究の時間の充実 ○いじめや不登校への具体的な対応	8/17
センターA 研修 Ⅵ	○中学校との関連を踏まえた授業づくり	8/31
センターA 研修 Ⅶ	○授業展開の方法と実際① ○教材研究と教材開発の工夫	9/28
授業研修 秋田明徳館高校	○生活体験発表会参加 ○授業参観 ○講話 ○協議会	10/12
センターA 研修 Ⅷ	○授業実践研修	10/31
センターA 研修 Ⅸ	○特別な支援を要する児童生徒の理解と支援① ○特別な支援を要する児童生徒の理解と支援② ○授業展開の方法と実際②	11/2
センターA 研修 Ⅹ	○学校における教育相談 ○特別活動の理解とホームルーム経営 ○学校組織の一員として②—目標管理— 【閉講式】 初任者研修を終えるに当たって	1/25

3 校内研修について

A. 一般研修

空欄は2, 3月実施予定

分掌等	研 修 内 容	指 導 者	日 時
学校管理	教員としての使命感	校長、指導教員	4/13
	本校の教育目標と学校運営	校長、指導教員	4/13
	本校の組織と服務規程について	教頭、指導教員	4/20
	諸表簿及び公文書の手引き	事務長、指導教員	8/10
	危機管理体制とその在り方	教頭、指導教員	12/15
総務部	学校行事と年間行事予定	総務主任、指導教員	5/16
	PTAの組織と運営	総務主任、指導教員	1/13
教務部	本校の教育課程について	教務主任、指導教員	5/16
	校内規程と評価	教務主任、指導教員	9/7
	生徒指導要録の記入方法と取り扱い	教務主任、指導教員	2/2
生徒指導部	生徒指導の現状と問題点	生徒指導主事、指導教員	7/29
	生徒指導の現状と問題点	生徒指導主事、指導教員	12/22
	問題行動の事例研究	生徒指導主事、指導教員	7/28
	教育相談の進め方	生徒指導主事、指導教員	7/28
特別活動部	特別活動指導の要点	特活主任、指導教員	5/12
	生徒会指導、部活動の指導の在り方	特活主任、指導教員	
進路指導部	本校の進路動向と進路指導の進め方	進路指導主事、指導教員	
	キャリア教育の進め方Ⅰ	進路指導主事、指導教員	
	キャリア教育の進め方Ⅱ	進路指導主事、指導教員	
保健部	保健室の利用状況と健康管理	保健主事、指導教員	
図書部	学校図書館の在り方と利用状況	図書部主任、指導教員	11/25
ICT活用 推進委員会	パソコンの効果的利用法と 個人情報管理	ICT活用推進リーダー、 指導教員	12/23
教務部 (研修)	初任者研修の意義と年間計画	研修担当、指導教員	5/23
	校内研修の在り方と研修体制	研修担当、指導教員	11/10
	初任者研修を振り返って	研修担当、指導教員	
学年部	学年経営とホームルーム経営の在り方	学年主任、指導教員	8/8
	学級担任の実務と心構え	学年主任、指導教員	

B. 教科研修

空欄は2, 3月実施予定

分掌等	研 修 内 容	指 導 者	日 時
芸術科	授業参観と研究協議Ⅰ	教科指導員	
	授業参観と研究協議Ⅱ	教科指導員、他教科	
	授業参観と研究協議Ⅲ	教科指導員	
	授業参観と研究協議Ⅳ	教科指導員、他教科	
	研究授業と研究協議Ⅰ	教科指導員	5/24
	研究授業と研究協議Ⅱ	教科指導員、他(全)教科	5/31
	研究授業と研究協議Ⅲ	教科指導員、全教科	6/14

分掌等	研 修 内 容	指 導 者	日 時
芸術科	研究授業と研究協議Ⅳ	教科指導員	11/22
	研究授業と研究協議Ⅴ	教科指導員、全教科	11/29
	示範授業①	教科指導員	
	示範授業②	家庭科主任	8/29
	担当教科の年間目標と年間指導計画	教科指導員	4/20
	評価方法と評価規準①	教務主任	6/22
	評価方法と評価規準②	教科指導員	
	授業評価と授業改善①	教科指導員	
	授業評価と授業改善②	教科指導員	
	学習指導案の作成①	教科指導員	5/31
	学習指導案の作成②	教科指導員	6/14
	学習指導案の作成③	教科指導員	
	学習指導案の作成④	ICT活用推進リーダー、指導教員	
	教材研究の方法と実際	教科指導員	8/19
	教材の精選と活用	教科指導員	8/19
	個に応じた学習指導の工夫	教科指導員	8/19
	生徒の活動と学習指導の工夫	教科指導員	1/13
	導入の工夫と授業構成	教科指導員	1/13
	生徒の学力の実態把握	教務主任	
	教科指導と教育機器の活用	ICT活用推進リーダー	8/23
	生徒理解と学習指導の工夫	教科指導員	
	年間の教材研修の成果と課題	教科指導員、芸術科	

4 研修を振り返って

採用になった際、一番うれしく思ったことは初任者研修を受けられることだった。講師経験はそれなりにあったが、高等学校での研修機会はあまりなく、教科の教員も他にいない状況だったため、自分の指導はこれでよいのだろうかという不安を常感じていた。1年間の研修を通して、改善すべきことと継続してよいことが、根拠をもって判断できるようになり、少しだけ自信がついたように思う。

校外研修では、今日的な課題について網羅された内容を、講義の他、演習や事例検討に取り組むことで、実際の場面をイメージしながら学ぶことができた。校内研修では、校外研修の内容を踏まえ、十和田高校ではどのように勤務や指導をしていけばよいのかを学んだ。特に、服務や校内規程、事務処理に関する研修は、しばらく高等学校勤務から離れていた私にとっては大変意義深いものだった。

研修全体を通して学んだことは、教員には不易な資質能力がある一方で、変化を厭わない姿勢も大切だということである。「初任者研修は終了するが、研修の機会が減るわけではない」というお話をセンター研修の開講式でいただいた。今年度はたくさんの方々が研修の機会を与えてくださったが、これからは自分で機会を作り、初任者研修で学んだ知識を実践力にできるよう、研鑽を重ねていきたい。

実践的指導力習得研修講座（養護教諭 2 年目）

養護教諭 石郷岡 茜音

1 目標

学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、保健教育や保健管理、健康相談等についての実践的指導力を身につける。

2 実施時期 I 期：令和 4 年 7 月 1 4 日（木） II 期：令和 4 年 9 月 8 日（木）

3 研修内容

【I 期】●保護者対応と連携

保護者に対して学校からの情報提供をこまめに行う。情報提供されないと不安→不満→不信に繋がる。教師からの情報提供は信頼獲得の第一歩。保護者の苦情、要求に対しては、保護者の怒りを受け止め→教師の対応を説明し→どのような対応を期待していたのか質問→今後は保護者と連携することを確認。「指導が児童生徒にどのように届いたのかが重要」

●学校組織の一員～学校教育目標と保健室経営～

自校の保健室の強みを活かした保健室経営。学校（保健室）の強み、弱みを洗い出し分析。

SWOT 分析…S（強み）W（弱み）O（支援）T（阻害）。O×S で未来志向の方向性を模索。

●教員のメンタルヘルス

メンタルヘルス＝心の健康（ストレス・寂しさ・安心感）心が健康だと適度に悩むことができる。ストレス状況の確認方法：仕事や勉強の効率、表情、イライラの程度、怒りっぽくないか

【II 期】●特別な支援を要する児童生徒の理解と支援

発達障害とは自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、その他これに類する脳機能障害。通常、低年齢で発症する。

●児童生徒理解と人間関係づくり

児童生徒の問題行動の目的：注目、権力争い、復讐、無気力に分類される。

●児童虐待への対応

概要、職員の配置状況、相談の種別、児童虐待の定義、原因、影響、早期発見の重要性、虐待の兆候、通告義務、子どもの安否確認プロセス、一時保護 等

4 終わりに

【I 期】心の健康は、ストレス・寂しさ・安心感の 3 つから構成されていて、3 つの特徴とバランスが崩れた時の対処方法を学ぶことができた。本校の保健室来室者の約 4 割は相談で来室していて、今回のような研修で得た学びを生かし、専門的な視点で捉え、対応する力を身につけたい。

【II 期】児童生徒理解と人間関係づくりでは、人間関係で傷ついた児童生徒は人間関係で癒やせるという言葉が強く印象に残っている。また、ソーシャルスキルの経験不足は学び直しができることも学び、人間関係で悩んでいる生徒に対して、人付き合いのコツなどを伝え、人間関係を円滑にする方法を学び直す場として保健室を機能させ、支援に繋げていきたい。

「A-17 実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）」

教諭 寺田尚志

【講座のねらい】

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

【会 場】 総合教育センター

【期日・日程】

I期：令和4年6月15日（水）

10：00～10：15 <開会行事・オリエンテーション>

挨拶

秋田県総合教育センター 副主幹 田中 紀和 様

10：15～11：55 <講義・演習>

不登校の未然防止と対応

秋田県総合教育センター 指導主事 小野寺 祐 様

12：55～13：05 <説明>

社会に開かれた教育課程の実現に向けて

～社会教育主事の職務と役割～

秋田県教育庁生涯学習課 副主幹 佐々木 達也 様

13：10～14：10 <講義・演習>

学校組織の一員として―自己理解に基づく目標設定―

秋田県総合教育センター 指導主事 八柳 英子 様

14：20～16：05 <講義・演習>

カリキュラム・マネジメント

秋田県総合教育センター 主任指導主事 小松田 哲也 様

16：05～16：15 <研修の振り返り>

II期：令和4年8月8日（月）

10：00～10：15 <オリエンテーション>

10：15～12：10 <協議・演習>

授業評価による継続的な授業改善①

13：10～15：20 <協議・演習>

授業評価による継続的な授業改善②

15：25～16：05 <講義・演習>

授業評価による継続的な授業改善③

16：05～16：15 <研修の振り返り>

【講座の感想等】

<不登校の未然防止と対応>

これまで何気なく実施していた様々な教育活動が、生徒の居場所づくりや絆づくりに一役買っていたことを再確認する良い機会となった。授業と部活動以外の様々な場所が生徒の居場所となり得るということを認識し、一人一人の生徒を多面的に捉えることの重要性を意識しながら業務に励みたいと感じた。また、現在の自分には「勇気づけの声がけ」があまりできていないと感じたので、今後生徒と接する際に意識したい。

<学校組織の一員として自己理解に基づく目標設定>

この講義から、自分自身のキャリアアップに関して、より主体的に目標設定と振り返りを通して自己研鑽に努めるべきだと感じた。その手段の1つとして「あきたキャリアアップシート」を活用して、より客観的に自己分析し、年度ごとの研修を計画的に進めるように心がけていきたい。現在、各勤務校で行われている人事評価シートの作成に関連した管理職との一連の面談等の内容とリンクさせることで、1年間の取組により一貫性を持たせた研修計画を組むことができると考えられる。

<カリキュラム・マネジメント>

この講義では、PDCAサイクルを回していく際には、まずは小さなサイクルを回すことを心がけ、その取組を自分だけではなく、他の教員も回しだすことで、学校全体の大きなサイクルや改革に繋げていくというイメージが印象的であった。加えて、1年間で1サイクル回すことを目指すと失敗することが多く、短期間で小さなサイクルを回すことを心がけるべきだという話があった。この見解は、自分が総合的な探究の時間にPDCAサイクルを回していこうと取り組んだときに得られた教訓とも一致しており、大いに共感できた。

<授業評価による継続的な授業改善>

Ⅱ期における授業研修会では、他教科の先生方と協議できたことが大変有意義であった。ICTの活用の仕方やグループワークの持ち方などは、「教科の特性に応じて」活用することがよく重視されるが、今回の協議により、どの教科であっても共通した使い方や活用するときの注意点があることに気づかされた。例えば、生徒の考えを集約・共有する点でICTが有効であることや、共有して終わりではなく、生徒の発表まで繋げた方が生徒の学びが深まるのではないかという共通の課題も見いだすことができた。また、他教科の先生も、自分自身も、「教科の特性」を意識しない分、自由な発想で意見を出し合えたことも協議内容の充実に繋がったと感じている。これは、学校全体で組織的に授業改善に取り組む上で有効な視点であると考えられる。本校で行っている授業を見合う会や公開研究授業等の際に、教科内での意見交換だけではなく他教科同士の意見交換の場も重要視していきたい。

高等学校新任学年主任研修講座

教 諭 中嶋 豊

【日時】 I 期 令和4年5月13日(金)

II 期 令和4年6月23日(木)

【会場】 秋田県総合教育センター

【研修の目標】 学年経営に関する理論と実践のあり方についての研修を通して、実践的な指導力を高める。

【研修内容】

〈I 期目〉

- | | | |
|------------------------|-------------|-------|
| ○望まれる学年主任像と学年主任の役割(講義) | スーパーアドバイザー | 樋口 隆 |
| ○学年経営の実際(実践発表) | 秋田北鷹高等学校 教諭 | 日景 聡 |
| | 本荘高等学校 教諭 | 佐々木 望 |
| ○学年経営における課題への対応(協議) | 指導主事 | 八柳 英子 |
| | 指導主事 | 森川 剛 |

〈II 期目〉

- | | | |
|--------------------------|------|-------|
| ○生徒指導における学年主任の役割(講義・演習) | 指導主事 | 細谷 林子 |
| ○学年経営と組織マネジメントの基礎(講義・演習) | 指導主事 | 木村ふさ子 |
| ○思春期の揺れと成長を共に歩む(講話) | | |

秋田県赤十字病院心療センター 臨床心理士 丸山真理子

【受講内容】

新任者の研修ということで年2回に分けて研修講座を実施した。1回目の講座では、はじめに学年主任の役割の法的根拠として、連絡調整および指導、助言があるということを教えていただいた。学年部職員や様々な分掌との連携、管理職への報告・連絡・相談の徹底、保護者、地域との連携など多岐にわたって幅広い対応と視点が求められるため、学校全体や学年の状況を適切に把握することの重要性を感じた。想定外は起こるものとして考え、危機管理意識を高めることが大切である。また、学年経営の実際として2名の先生から実践発表をしていただいた。学年主任は担任のサポート役であり、担任が学年主任に望むこと・望まないことという視点を持つこと、最良の方法を組織で見つけていくことの大切さや次週・来月・3ヶ月後・1年後・3年後を見通した指導をすることなどの重要性についても教えていただいた。2回目の講座では、危機管理の「さしすせそ」、いじめや不登校に対する理解と対応について兆候や変化を見逃さないこと、脳の発達段階やメカニズムから見た思春期の行動や特徴について、教師のストレスについても大変参考になる講義・講話であった。

【感想・その他】

この2日間の研修を終えて、様々なことを学ぶことが出来た研修であった。学年主任となり、年度初めの学年目標や年間計画の作成から始まり、PTAに関わる保護者への連絡調整、管理職、各分掌、学年部、修学旅行や企業見学など外部機関との連絡調整など多岐にわたる業務があり、全体を把握し、見通しをもって計画的に行動しなければいけないことを痛感している。「学年経営の実際」の発表のなかで「暇なふりをする」「話しかけやすい雰囲気づくりをする」という助言があった。刻々と変化する状況の中で生徒の学校生活の変化や家庭での様子などの些細な情報交換であっても、日頃から情報共有や共通理解を図る習慣や雰囲気をつくることで、様々な課題が出てきたときに迅速且つ組織的に対応できるのではないかと考えている。そのためにも風通しのよい学年部の雰囲気づくりが大切であり、学年主任の役割の重要性を強く感じている。

今年度の入学生は鹿角小坂地区統合校の1期生となる特別な学年でもある。生徒の不安を取り除きながら充実した学校生活を送らせるためにも、生徒の変化やサインを見逃さず、2年次、そして、統合や進路目標の達成につなげられるよう生徒の卒業までを見通した指導が必要である。自己の役割が果たせるよう取り組んでいきたい。

高等学校道德教育推進研修講座

教 諭 土 門 祐 子

【講座の目標】

学習指導要領の趣旨を行かした道德教育について理解を深めるとともに、道德教育の実践的な推進力を身に付ける。

【期 日】令和4年6月10日（金）

【会 場】秋田県総合教育センター

【日程・内容】9：15～10：00 受付

10：00～10：20 <開講行事・オリエンテーション>

10：20～11：40 <講義・演習>道德教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂

12：45～14：15 <実践発表・協議>道德教育推進のための取組

秋田県立横手清陵学院高等学校 教諭 沼倉 健

秋田県立秋田工業高等学校 教諭 湯澤 馨子

14：25～16：05 <講義・演習・協議>道德教育の推進体制の充実

【受 講 者】高等学校の道德教育推進教師20名

【講座内容の概要等】

<講義・演習>道德教育の今日的な課題と学習指導要領の改訂

- ・道德の特別の教科化の背景・いじめの本質的な問題解決に向け道德教育の必要性が増大
- ・道德教育の確認・中学校道德教育・道德科の目標、道德性・道德的判断力・道德的心情とは、道德的価値、中学校道德科の内容項目（4つの視点、22項目）
- ・高等学校における道德教育・高等学校道德教育の目標、高校生の発達段階、「人間としての在り方生き方」を考える、高等学校における道德教育、高等学校の道德教育の指導体制、「道德教育推進教師」の役割、高校における道德教育の現状
- ・道德教育の充実に向けて・高校における道德教育の課題「個々の先生方の指導をどう共有しつなげていくか」「在り方生き方考える機会をどのように設定するか」、全体計画作成上の創意工夫と留意点、全体計画の改善にあたって

<実践発表・協議>道德教育推進のための取組

- ・実践発表① 秋田県立横手清陵学院高等学校（教諭 沼倉 健）・勤務校について、星陵高校の道德教育の考え方：「形にこだわりすぎずやってみよう！」「中学校の授業の活用」、具体的実践例「かけがえのない生命」「コミュニケーション」、基本的ねらい「生きる力の育成」
- ・実践発表② 秋田県立秋田工業高等学校（教諭 湯澤 馨子）・4年間の歩み「R1模索の年 R2試行錯誤の年 R3変化と対応の年 R4定着化を目指す」、職員研修について、道德教育・キャリア教育・生徒指導、授業実践例「貢献とは何か、One for all, All for oneの意味（3年担任による事業実践）」「奥原希望選手の礼の意味（湯澤教諭による授業実践）」「投手の球数制限について（軟式野球部監督による部活実践）」

<講義・演習・協議>道德教育の推進体制の充実（他校との情報交換）

- ・他校との道德教育全体計画表の交換と計画・授業実践に関する協議

【感 想】

講義では、道德教育が高校でも重要視されるようになった社会的背景や、小中高の道德教育の学習指導要領の違いなどがわかった。2高校の実践発表では本校でも参考にして道德の授業を計画できるような実践例が紹介されており、本校の実情に合わせて活用していきたい。また他校との情報交換では、どの高校も似た課題を抱えており、課題解決について協議することができた。

「読む力」を高める国語科の授業づくり

臨時講師 虻 川 涼 香

【研修の目標】

国語科の「読むこと」の領域において、児童生徒の「読む力」を高めるための実践的な研修を通して、指導力の向上を図る。

【期 日】 令和4年9月27日（火）10:00～16:15

【会 場】 秋田県総合教育センター

【研修内容】 「読む力」を高める指導の在り方（講義・演習）

【講 師】 秋田大学 名誉教授・東京未来大学 特任教授 阿部 昇

【受講者】 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教員20名

【講座内容の概要等】

＜講 義＞「説明的文章の指導法」

- ・国語教育における深い教材研究の必要性
- ・教科内容として「A：構造」「B：論理」「C：吟味」がある。
- ・説明的文章のジャンル指導について
- ・構造読みの手順について

＜協 議＞「教科書教材を用いた実践」

- ・構造読みの実践を「こまを楽しむ」「すがたをかえる大豆」を通して行った。「はじめ（序論）」「なか（本論）」「おわり（結論）」の三部構造に分けた。
- ・論理読みの実践を「時計の時間と心の時間」を通して行った。各段落から柱の段落を見つけ、それぞれの文章との論理関係を考えた。
- ・吟味読みの実践を「魚の感覚」「『言葉』を持つ鳥、シジュウカラ」を通して行った。文章の工夫・優れた点と不十分な点・問題点の二つの視点で協議した。

【感 想】

講座の中で取り上げられたのは小学校や中学校の教材であったので直接的に自分の授業に生かせるものはなかったが、「構造読み」「論理読み」「吟味読み」の3つの指導法は自分の授業に取り入れられると感じた。特に小学校は言葉の1つ1つにこだわって教材研究をしているのだなと改めて思い、自分は文章量が多いからといって言葉をないがしろにしているのではないかと気づかされた。

実践ではもっと学びたいという主体的な姿勢で取り組んでいた。この講座のように、私自身の深い教材研究によって生徒にも国語を学ぶことの楽しさを伝えたいと感じた。特に不確かな情報があふれる現代社会の中で「吟味読み」は重要な指導ではないかと感じる。教科書にある文章をすべて肯定するのではなく、批判的な視点でも読む指導を取り入れていきたい。

公民科「現代社会」学習指導案

日 時：令和4年10月13日（木）6校時
 対象クラス：2年A組
 場 所：2年A組教室
 指 導 者：岩澤 利哉
 使用教科書：「高等学校現代社会新訂版」（清水書院）

1 単元名 第1章「青年期と自己の形成」 第2節よりよく生きることを求めて 3近代への歩み

2 単元の目標 (1) 近代の始まりを告げるルネサンスと宗教改革、近代科学の始まり、近代哲学の基礎となった経験論と合理論、批判哲学について理解することができる。〔知識・理解〕
 (2) 思想家の著作などの諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に考察の材料として活用できる。〔資料活用の技能〕
 (3) 近代思想の概念は現代の私たちにとって有効か、多面的・多角的に考察したり、課題解決に向けて公正に判断したり、合意形成をしながら話し合い、思考したことを適切に表現できる。〔思考・判断・表現〕

3 単元と生徒 21名（男子6名、女子15名）のクラスである。素直に真面目に授業に取り組む生徒が多い。自分の意見を積極的に表現する面が弱いので、自分の意見を表現しやすい工夫をしながら、表現力を養いたい。近代思想の歩みを概観しながら、近代思想の概念について、現代社会や自分に当てはめて考察させ、現代社会における情報の捉え方についても考えさせるなどして、現代に生きる近代思想の概念に触れさせたい。

4 単元の指導計画と評価計画

時	評価規準				学習活動
	A関心・意欲・態度	B思考・判断・表現	C資料活用の技能	D知識・理解	
1				文芸復興や宗教改革、近代科学の発見について理解している。	ルネサンス・宗教改革の概略と近代科学の始まりについて学ぶ。
2		イドラを身近なところや社会の中に発見し、現代における有効性について考察し、表現している。			ベーコンの思想について現代でも有効か話し合い発表する。
3			原典の日本語訳資料から要点や情報を読み取り考察の材料として活用している。		デカルトの思想について現代において有効か考察する。
4				人間が理性的に認識することの意味と限界について理解している。	カントの説く人間の理性の能力について学ぶ。

5 本時の計画（2／4時間）

（1） 本時のねらい ベーコンのイドラという概念について現代の私たちにとってその考え方は有効か考えることができる。

（2） 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	評価（内容）【方法】
導入 5分	・アイドルの語源は何か問いかけ、本時の目標を確認する。	・電子黒板でアイドルの画像を表示して興味を喚起する。	
	本時の目標（主発問）：イドラという概念は私たちが情報を捉えるときに有効か考えてみよう		
展開 40分	・ベーコンの思想を知るために、原典資料を音読する。（全体5分） ・イドラについて読み取り、分かったことをワークシートにまとめる。（個人5分） ・イドラについて分かったことを小グループで話し合う。また、それは身近なところや社会の中に見いだせないか考える。（グループ4分） ・新聞記事を読み、この中にイドラはないか考えワークシートにまとめる。（個人6分） ・新聞記事を読んで感じたこと、イドラと関係ないかを小グループで話し合う。その上でベーコンの思想は現代でも有効か話し合い発表する。（グループ10分→全体交流10分）	・資料を音読させ、ポイントにアンダーラインを引かせる。 ・自分の理解したことを例で表せるように援助する。 ・お互いの解釈・意見を出し合い、思考が深まるよう留意する。 ・新聞記事を提示してイドラを現代社会に結びつけて捉える視点を与える。 ・新聞記事の内容でイドラに当たるものはないか留意させる。 ・記事の感想を共有するとともに、情報を発信する側、受け取る側両方の立場からベーコンの思想は現代でも有効かどうか話し合い発表させる。	イドラという概念を身近なところや現代の社会に照らし合わせて考えたときに有効かどうかを話し合い表現している。 （B）【発言・発表観察、共同作業観察、シート点検】
まとめ 5分	・発表された意見を整理し本時の目標が達成できたか振り返りワークシートに記入する。	・生徒から出された意見で特に重要なポイントやユニークな視点を指摘する。	

保健体育科「体育」学習指導案

日 時：令和4年10月13日

対象クラス：3年ビジネスコース

場 所：第一体育館

指 導 者：中嶋 豊

1 単 元 名 球技選択 バスケットボール

2 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。(技能)
- (2) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- (3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

3 単元と生徒

バスケットボール選択者は男子13名である。体を動かすことへの関心や運動能力が高い生徒が多く、基礎的な技術が身に付いているが、落ち着きがなく、集中力が長続きしない生徒も見られる。

バスケットボールは、相対する2チームがパスやドリブルなどのボール操作でボールを進め、相手ゴールにシュートしたり、相手のシュートを防いだりして勝敗を争うところにある楽しさがあるスポーツである。本単元では、チームで協力しながら、練習やゲームに取り組み、ボール操作とゴール前の空間を作り出す動きによってゴール前で攻防を競い合い、バスケットボールのもつ楽しさを味わわせたい。本時は前時のスタッズ(統計)をもとにグループ内で課題や作戦を考えることに焦点をあてて学習を進めることで、オフェンスやディフェンスでのチーム内の作戦や連携を考えさせ、プレイの幅や質を高めさせていきたい。

4 単元の指導計画と評価計画

時	評価規準				学習活動
	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能	D 知識・理解	
1	ボールに慣れるよう意欲的に取り組んでいる。 【観察】			基本的なルールを理解している。【記述】	○学習の流れ ○ルールの確認 ○基礎練習
2 ～3	基礎の反復練習に意欲的に取り組み、安全面に留意している。【観察】			ルールを理解して基礎練習やゲームに臨んでいる。【観察】	○基礎練習 ○3対3 ○ミニゲーム
4 ～5		【本時】味方や相手チームの特徴を分析し、作戦を考える。【観察】	分析した戦術をゲームに生かすことができる。 【観察、記述】		○基礎練習 ○分析、作戦の考察 ○ミニゲーム

6 ～9	個人やチームの課題を理解し、それに適した練習を行っている。【観察】 公平な態度で試合に臨み、運営に主体的に取り組んでいる。【観察】		味方や相手チームのメンバーの特徴を理解し、それに状況に応じたプレイを選択できる。 【観察】		○課題練習 ○ゲーム
10		これまでの授業を振り返りながら、選択球技への関わりを考えている。 【記述】	味方や相手チームのメンバーの特徴を理解し、それに状況に応じたプレイを選択できる。 【観察】		○ゲーム ○単元の振り返り

5 本時の計画（4／10時間）

（1）目 標

前時の映像やスタッズを振り返り、課題や作戦を考えながらゲームに生かすことができる。

（2）展 開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価規準（内容）【方法】
導入 (5分)	- 準備体操 - 学習活動の確認 本時の目標： 前時の映像やスタッズを振り返り、課題や作戦を考えながらゲームに生かすことができる。	- 怪我予防のためにしっかりと準備体操を行っている。 - 本時の授業の流れを説明し、見通しを持たせる。	
展開 (40分)	- 前時のゲームの振り返り ○前時の動画を視聴、個人・チームのスタッズを確認する。 ○データを分析し、チーム内で共有しながら作戦を考える。 - ウォーミングアップ ○ドリブル ○ドリブルシュート ○ジャンプシュート - ゲーム 8分×2	- 前時の映像やスタッズから個人・チームの課題や相手チームの傾向・特徴を分析し、リーダーを中心にゲームの課題・作戦を話し合わせる。 - 作戦を再確認し、ゲームに臨ませるようにする。 - 試合に出場しない生徒は得点板、タイマーなど役割分担するよう促す。 - プレイタイムをシェアし、全選手に出場機会を与えるよう指示する。	前時の映像やスタッズを振り返り、課題や作戦を考えながらゲームに生かすことができる。（B、C） 【観察、記述】
まとめ (5分)	学習の振り返り	試合後の課題や成果をワークシートに記述し、全体で共有する。	

保健体育科「体育」学習指導案

日 時：令和4年10月13日

対象クラス：3年ビジネスコース

場 所：第二体育館

指 導 者：神居 恵悟

1 単 元 名 球技選択 バドミントン

2 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。(技能)
- (2) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(態度)
- (3) 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

3 単元と生徒

バドミントン選択者は男子5名、女子6名の計11名である。クラス内では比較的運動を得意としていない生徒と女子が多く選択している。本校ではネット型の室内球技としてバレーボール、バドミントンの2種目を実施しており、本単元では、空いた場所を狙ってシャトルを打ち返したり、仲間と守備のバランスを維持したポジションの移動をしたりなどといった技能の修得を通じてネット型のゲーム特性を楽しみ、スポーツに親しむ態度を育成することを目的としている。生徒の技能レベルを考慮し、前年度までの内容を改めて練習したり、ゲーム運営を分担して行ったりしながら、様々な角度から運動に親しむ態度を育成できるように授業を構成した。

4 単元の指導計画と評価計画

時	評価規準				学習活動
	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能	D 知識・理解	
1				適切なショットの名称や打ち方がわかる。【記述の確認】	○学習の進め方の確認 ○課題スキルアップ練習
2	健康・安全に留意し、仲間と協力して活動に取り組んでいる。【行動の分析】				○課題スキルアップ練習 ○ゲーム
3				適切なショットの名称や打ち方がわかる。【記述の確認】	○課題スキルアップ練習 ○ゲーム
4			【本時】左右のスペースを狙って適切なショットを打ち返すことができる。【観察】		○課題スキルアップ練習 ○ゲーム
5		自己やペアの特徴を踏まえ、作戦を立てている。【記述の確認】	前後左右のスペースを狙って適切なショットを打ち返すことができる。【観察】		○スキルアップ練習 ○ゲーム

6	身につけたスキルを生かして主体的にゲームに取り組んでいる。【行動の分析】				○リーグ戦の説明・確認 ○役割分担 ○目標設定
7			空いている空間を狙ってシュートを打つことができる。【観察】		○スキル練習 ○リーグ戦
8	主体的に試合運営に関わり、仲間と協力して活動している。【行動の分析】				○スキル練習 ○リーグ戦
9			スペースを埋めるための仲間と連携した動きや、空いている空間を狙ってシュートを打つことができる。【観察】		○スキル練習 ○リーグ戦
10		達成できたことや課題について考え、選択球技との関わり方を考えている。【記述の確認】			○リーグ戦 ○単元の振り返り

5 本時の計画（4／10時間）

（1）本時のねらい

左右のスペースを狙って適切なシュートを打ち返すことができる。

（2）展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準（内容）【方法】
導 入 （7分）	- ウォーミングアップ - 前時の課題「前後を狙ってシャトルを打ち返す」の振り返り練習。	- ケガ予防のためにしっかりとストレッチをさせる。 - 前時のポイントを簡潔に示し、練習の焦点を明確にする。	
	本時の目標:左右のスペースを狙って適切なシュートを打ち返すことができる。		
展 開 （38分）	- 本時の目標、課題を確認する。 - 課題達成のためのスキルアップ練習をする。 ①右のスペースを狙って打つ ②左のスペースを狙って打つ ③左右のどちらかを狙って打つ - ゲームを行う。 ○左右のスペースを意識して打ち分け、得点を狙う。	- 電子黒板に図を示し、映像を見せることで身につけたいスキルを明確に示す。 - 達成課題を3段階で示し、技能の向上を目指しやすくする。 - 第1段階：左右の線を越える - 第2段階：かごを狙う - 第3段階：適切なシュートでかごを狙う 「右」「左」の声かけで相手の動きに応じたシュートを狙うよう促す。	左右のスペースを狙ってシャトルを打ち返すことができる。（C）【観察】
まとめ （5分）	- 本時の振り返りをする ○自己評価と次の課題について整理し、自分の言葉でまとめる。	本時の目標の達成度を内省させ、他者と共有して次回の課題に繋げさせる。	

英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

日 時：令和4年10月13日（木）

対象クラス：1年B組

場 所：1年B組教室

指 導 者：木村 由美

使用教科書：MY WAY English Communication I
（三省堂）

1 単元名 Lesson 5 Endangered Languages

2 単元の目標

- （1）消滅の危機にある世界の言語について知る。
- （2）英語以外の言語について調べ、クラスでその言語の名言を紹介する。
- （3）「関係代名詞」「It is ... to 不定詞」の表現を理解し、適切に使うことができる。

3 単元と CAN-DO 形式での学習到達目標との関連

Reading Grade 1 基本的な語彙や表現を使った文章を読み、内容を理解することができる

4 単元と生徒

男子6名女子9名計15名から成るクラスである。小人数ながら学力的な差が大きく、上下どちらか一方に照準を合わせるとどちらかの動機付けが下がるので、全体の様子を見ながらそれぞれが自分のペースで取り組める課題の用意が必要となる。

学習意欲は低くなく、ペアワークやグループワークにも主体的に取り組むことができる生徒たちである。少数派を受け入れることがテーマになっているこの単元を通して、多様性についての理解を深めてほしいと考えている。

5 単元計画

- 1 時間目 全体の導入、新出単語の理解
- 2 時間目 全体のさまざまな表現の理解、1・2時間目で学習した単語や表現を使った活動
- 3 時間目 全体の内容把握【本時】
- 4 時間目 Section 1～2 の内容理解
- 5 時間目 Section 3～4 の内容理解
- 6 時間目 内容理解のまとめ
- 7 時間目 文法の演習、まとめ
- 8 時間目 学習した文法を使った表現活動

6 単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
「関係代名詞」「It is ... to 不定詞」の表現を適切に使うことができる。	消滅の危機にある世界や日本の言語について学ぶことで、言語や文化の多様性を理解している。	消滅の危機にある世界や日本の言語について学ぶことで、言語や文化の多様性を理解しようとしている。

7 本時の学習（3／8時間）

（1）目 標

世界にある「消滅の危機にある言語」についての基本的な情報を掴み、自分の考えを表現することができる。

（2）指導計画

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準（内容）【方法】
導入 10分	- 今は使わなくなった「死語」についてペアで自由に意見交換をする。 <u>ペアで単語練習をする。</u> - 本時の目標提示	- 自由な発想と発言を促す - 本レッスンの主題である、世界の「消滅の危機にある言語」に触れ、展開につなげる。 - ペアで音読し発音を確認する。 - 発音が曖昧の生徒がいないか、各ペアを観察したり声をかけたりして確認する。 - 授業で話したり読んだりすることへの抵抗感を減らす。	
	世界には「消滅の危機にある言語」が存在することを理解しよう		
展開 30分	- ワークシートを使って、本文に登場する「Arta」や「Tsimshian」などに下線を引き、「言語学者」が読者に何を伝えるためにこれらの言語について言及したのか答える。 <u>オンラインクイズアプリを使って</u>、大まかな内容に関するyes/no クイズにやり方を変えて2回答える。	- Scanning を通して本文全体の流れをつかませる。 - Kahoot! を使って本文全体の流れをつかませる。 - やり方を変えて2回行うことで内容把握を定着させる。	世界には「消滅の危機にある言語」が存在することを理解できる（B思考・判断・表現） 【問題演習、共働作業観察、シート点検】
まとめ 10分	- 消滅の危機にある言語についてワークシートに答えを書いて、まとめをする。 - 消滅の危機にある言語についてワークシートに自分の考えや感想を英語で書いて提出する。	- Skimming を通して今日の学習内容を振り返る。 - 英語で書き表そうとする意欲を、声をかけ励ます。 - 生徒が必要だと感じたらChromebook を使って英文を調べてもよいと伝える。	

令和4年度校内授業研究会及び指導主事学校訪問(第2回)全体会 記録

【研究協議分科会】※各分科会とも、Jamboardを活用したワークショップ型協議を実施

[公民科]

〈授業者から〉

時間配分がまずく、話し合いと発表の時間が短くなった。

〈協議〉 (○=成果 ▲=課題)

○資料が豊富で、生徒がさまざまな視点を持つきっかけとなったと思われる。

○授業の流れが示されており、生徒は次に何をするのが分かった状態で授業を受けることができていた。

○グループ活動の最中に「具体例を挙げてみよう!」という発問があったが、それがきっかけとなって活発な意見交換がされていた。個々の生徒の理解も深まったと思われる。

○生徒同士でワークシートに記載した内容を確認合う活動が、活発な意見交流がなされていた。グループ活動全般において生徒の発言が多かった。

○導入部分での「ももクロ」の画像によって、生徒の興味関心を上手に引くことができていた。それと同時に「イドラ」という用語を印象的に記憶させる効果もあったように思われる。

○スライドの内容が、ワークシートに沿った内容であり、作成時の努力の跡が見られる。

○グループワークや個人での作業の時に、電子黒板でタイムマネジメントしていて、生徒の活動にメリハリを持たせることができていた。

○作業が滞っている生徒に対して机間巡視の際に適切に声かけをしてフォローしていた。

○発表・発言してくれた生徒に対して「ありがとう」と声をかけるなど、発表を肯定する場面が多く見られた。

▲作業が滞っている生徒に対して丁寧な声かけをしていたが、結果として置き去りになってしまっている生徒もいた。支援の方法を声かけ以外にも持つべきではないだろうか。

→グループになって生徒同士で教え合う活動を取り入れてみてはどうか。

→教え合う活動が、その科目を得意とする生徒が苦手とする生徒に教えるという構図が定着し過ぎると、その科目を苦手とする生徒が自分で考えようとしなくなる事例もあるため、注意も必要かもしれない。

▲授業者からの反省にもあったように、時間配分に課題が残る。タイマーの起動に手間取ったり、資料の読み取りなどの知識をまとめる作業に多くの時間を割いてしまったりしており、本時の目標である「生徒に考えさせる」活動に十分な時間を割くことができていなかった。

→目標が「生徒に考えさせる」ことであれば、イドラの種類をまとめるなどの知識整理部分は、教員が提示してテンポ良くまとめてしまっても良かったのではないだろうか。

▲目標の「…有効か…」という表現が、生徒にとって分かり易い表現になっていなかったのではないかと。目標や指示は、生徒にとってもっと分かり易い表現の方が良いのではないかと。

▲電子黒板を用いて説明スライドのみの提示になっていたが、生徒の気付きや意見の共有にも活用できないものか。

▲タイマーを表示すると説明のスライドが見えなくなってしまうのが難点であった。

〈指導助言・・・高校教育課 小松隆行 指導主事〉

・知識は、それを活用することで定着が図られるものであることから、生徒が得た知識を活用する場面を意図的に設け、使いながら定着を図る指導が有効である。

- ・生徒のグループ活動などの意見交換の場では、何をすべきかという指示や、何のために今この作業をするのかという目的が明確でなければ活発な意見交換は期待できない。
- ・グループ活動の話し合いでのゴールが焦点化できるような指示、発問、助言などの仕掛けがなければならぬ。
- ・今回の授業では、知識の部分はスピーディに提示して、それがどんな事例に該当するかをドリル形式の演習を交えるなどして知識の定着を図るという手段も考えられたのではないかと。そうすることで、考えるための材料となる知識を十分に理解した状態で話し合う時間が確保できたと思われる。

〔英語科〕

〈授業者から〉

- ・時間が足りなくなってしまったが、普段通りの授業ができた。
- ・最後のまとめプリントは課題も兼ねている。
- ・Scanning でピックアップした単語をチェックし、カフトを2回やることで文章全体の流れを把握することができる。2回やるのがミソ。1回目は文章の流れが分かるように出題し、2回目は順番をランダムにして内容の定着を図る。文法等の知識の定着となると個人差が出るが、この方法だとだいたい全員が把握・確認することができる。
- ・「確認」がメインだったため、思考の深まりがあったかどうかは自信がない。

〈協議〉（○＝成果 ▲＝課題）

- 生徒が常に活動に取り組んでおり、教師側からの一方的な授業ではないと感じた。
他教科からすると「授業っぽくない」感じもしたが、生徒の生き生きとした活動が見られた。
- 本校の生徒にとっては難しい内容の教科書である。そのため、導入で身近な話題から入り、生徒の考えを引き出すための小道具を使うことは効果的だったと思う。
- ペアを変えての単語練習が良かった。苦戦している生徒への支援も適切だったと思う。
- 授業者の声がけが良かった。生徒の達成感を高め、次の課題にも取り組もうという気持ちにさせるような声かけだった。
- Kahoot!を使って生徒全員が参加できる活動が良かった。また、質問内容も Yes/No で答えるものだったため、生徒も取り組みやすかったと思う。
- ▲全体の内容把握がメインの授業だったため、「生徒の生き生きとした表現」は見えにくかった。また、近くの生徒に相談する場面はあったが、話し合いや意見交流とまではいかなかったため、内容を読み込んでいく段階の授業も見てみたい。
- ▲最後までわからなかったら近くの人の答えを写していたが、それで理解できたと言えるのだろうか。
- ▲授業者の英語での発信が少なかったように思う。
→本校の生徒の実態に合わせて徐々に増やしていき、3年次には今よりも英語でのやりとりができるようにしたいと考えている。
- ▲授業者の言葉遣いが気になったが、普段からの生徒との関係性があってのことだとも思う。

〈指導助言・・・高校教育課 浅野朋央 指導主事〉

- ・生徒とのやりとりや声かけが生徒のやる気を出させるものであったと感じた。
- ・テーマを身近に感じる導入を取り入れてもらったが、生徒が考えやすいように多様な例を挙げていて良かった。
- ・メンバーを変えながら、そして相互に確認させながらの単語練習は良かった。電子黒板やアプリを活用し、フラッシュカード形式などで全体で確認する場面があっても良かった。

- ・読み取ったことを確認するようなプリントの工夫がなされていた。Yes/No だけではなく、徐々に4枚目のプリントにあるような英文で記述するものを増やしていければ、生徒の力になる。
- ・今回、Kahoot!は日本語での質問だったが、徐々に英語での質問を入れていくと知識の定着にも繋がる。
- ・最後に今日の授業で分かったことや感想などを英語でアウトプットする場面があると内容の定着や生徒の理解度もわかるため、今後取り入れてはどうか。
- ・生徒の助け合う姿が印象的だった。互いに教え合い、生徒達の達成感のある授業だったと思う。

〔保健体育科〕

〈授業者から〉

- ・生徒は、いつも通りに活動していた。
- ・アクティブだが、指示を守れないことが多い。
- ・個人の統計をとり、映像を残すなどの工夫をした。
- ・A組は、作戦を練ることができていたが、B組はあまりできていなかった。

〈協議〉（○＝成果 ▲＝課題）

- 集中力が持続できない生徒が多い中、場面の切り替えができていた。
- スタッズ、映像など楽しくみせてもらった。
- 時間の使い方がうまい。
- 前回の映像を意外に冷静に見ていた。
- データの活用が素晴らしい。
- 指導者が、プレーや生徒を褒めていて良かった。
- 映像やデータを見ながら、生徒を褒めており、生徒のやる気につながる。
- 動くことに声掛けが必要なく、自ら行動ができていた。
- 片付けがスムーズに行われていた。
- 指示が通るように、マイクを使うのは良かった。
- ▲作戦会議が立てられていなかった。
- ▲ゲームなので、勝ち負けにこだわって欲しい。
- ▲映像に映る人が良く見えなかったので、Chromebook で画面が映れば良いのでは？
- ▲待機している生徒が、オフィシャルができれば、すぐに試合に活かせるのでは？
- ▲データを見るとき、項目や用語の説明があれば良い（ターンオーバーって？という声あり）
- ▲プレー中静かで、もう少しチーム内の声掛けや指示があれば良かった。
- ▲最初から生徒がボールを持っていることで遊んでしまっていたため、説明時は持たせない方が良い。
- ▲1回もゲームに出ていない生徒がいたため、チーム内の思いやりや配慮が必要。

〈指導助言・・・保健体育科 打川聡 指導主事〉

- ・準備運動等、声を出して行っていてよい。整列は安全面からもう少し間隔をとった方がよい。
- ・映像や統計をとってまとめるなど、素晴らしい。集計ソフトの活用も検討してみるとよい。
- ・体育でのICT活用はこれからだと思われる。情報収集を行い積極活用してほしい。
- ・映像から良いイメージを活かせるようにするとよい。
- ・ICTは使うことを目的にしないこと。身につけさせたい力のために活用を検討する。
- ・作戦会議については、話し合ったことをチームごとに指導者へ伝えさせるのもよい。
- ・中嶋先生の「R4組織的授業改善一個々の手立ての実践経過」に記載している3つの観点が重要。

【全 体 会】

〈各研究協議分科会より全体報告〉※使用した Jamboard をスクリーン投影して報告

〈保健体育科 打川聡 指導主事〉

1. 学校体育、部活動について

- ・新体力テスト、ライフスタイル調査の総合的な検証から運動時間減少、体力低下傾向が見られる。運動の習慣化や多様な関わり方に繋げるためにも保健体育や体育的行事、部活動など教育活動全体を通して豊かなスポーツライフを継続するための資質能力を確実に身につける指導をお願いしたい。
- ・部活動について、コロナ禍での活動であるが、授業や行事では得られない貴重な経験ができる場である。安全面に配慮し、事故防止に努め、生徒の安全なスポーツ活動へのご配慮をお願いしたい。

2. 健康教育、食育について

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、生徒保護者への感染症対策への意識継続が難しくなっている。引き続き感染症対策をお願いする。
- ・令和3年度ライフスタイル調査より、本県高校生は全国値と比較すると睡眠時間が平均約10分短く、睡眠不足と感じている割合が高い。さらに朝食摂取状況は減少傾向、高校生女子の数値がここ数年で初めて全国値を下回る結果となった。十分な睡眠、バランスのとれた食事、適度な運動等、望ましい生活習慣を心がけ、生徒自身が自らの健康を管理し、改善する力を身につけることができるように教育活動全体を通じた指導をお願いしたい。

3. 学校安全について、

- ・全国各地において将来的に発生が懸念されている大規模地震や自然災害、交通事故、SNSに起因する犯罪、性暴力など生徒の安全を脅かすさまざまな事案が顕在化している。このような現状を踏まえ、次の3点について配慮をお願いしたい。
 - ①学校安全に関する組織的な取り組みの推進について
 - ②家庭地域関係機関との連携共同推進について
 - ③学校における安全教育や安全管理への取り組みの充実について
- ・十和田高校は地域防災計画において避難所に指定されている。関係機関との連絡がはかられていると思うが災害発生時の避難所開設手順等の確認をお願いする。

〈高校教育課 小松隆行 指導主事〉

1. 授業の感想

- ・すべての授業で本時の目標が明示されており、生徒が目的意識や見通しをもって授業にのぞんでいた。生徒の思考を促すような授業の工夫が意識されていた。
- ・参観した授業では、生徒の主体的な学びを引き出そうとする意図が感じられた。生徒も意欲をもって授業に取り組んでおり、達成感を感じている様子うかがえた。
- ・授業研修会では教科横断的な活発な意見交換が行われていた。生徒が主体的に学びたいような、学ぶことに意義を感じるような授業を学校全体の取り組みとして今後も取り組んでほしい。

2. 諸表簿について

- ・全体的に非常に良く整理されていた。
- ・生徒指導要録の総合所見、指導上参考になる諸事項の欄では生徒の実態がよく把握している記述が多く見られた。
- ・総合的な探究の時間の欄、評価の欄に活動が書かれているケースが見られた。評価について、丁寧な見取りが記述されている一方で、全く同じ文面が見られた。画一的な記述にならないように。

- ・各教科の年間指導計画、育成しようとする資質能力が計画に落とし込まれていることが必要。
- ・学習進度計画表の評価反省の欄、その時点での生徒の学習状況を踏まえ、授業改善の手立てが記されているものが多い。PDCAを図っている様子があった。
- ・定期考査問題では一問一答形式の語句補充だけでなく、段階的な思考を必要とする問題や論述をさせる問題も見られた。習得した知識や技能を活用する力や生徒の思考力、表現力を問うような出題を意識してほしい。

3. 生徒指導について

- ・組織として心のケアいじめ防止委員会での生徒の情報共有、校内巡視、非常に学校の丁寧な対応が感じられた。今後も些細な兆候を早い段階からの的確な認知と丁寧な初期対応を組織的に継続していただきたい。
- ・授業での先生方の生徒への接し方から日常的に生徒によく目を配っているように感じられた。

〈高校教育課 浅野朋央 指導主事〉

1. 1か月前課題

- ・生徒たちはしっかりと前をむいて真剣に、熱心に授業に臨んでいた。先生方は頻繁に質問や机間巡視、声がけなどをして生徒の理解度を確認しながら、躓いている生徒を適切にフォローしながら非常に丁寧な授業をされていた。生徒が先生をよく信頼して安心して学校生活を送ることが出来ていることがよく分かった。
- ・前回の訪問では、学習内容や既習事項と関連付けながら自分の意見や思いを表現し合う場面が少ないように感じた。こうした現状を踏まえて1ヶ月課題を設定して取り組んでいただいた。
- ・学んだことを振り返り、次回への繋がりを見通すことは主体的に学ぶことに有効である。学び合いの場で学んだことや自らの経験を活かしながら自分の思いや意見を言葉にしたり、他のメンバーからアドバイスを受けることは、生徒が自分の考えを確認したり、考えを深めたりすることに繋がる。
- ・生徒の思考を促すためには、答えが一つではない生徒の自由な発想や考えが引き出せるような問いが必要である。また、生徒に対して教師が適切にフィードバックすることも重要である。
- ・生徒の意見や考えを教師が全体に共有する場面を適切に設け、それにコメントしたりほめたりすることは、主体的に発言する力の育成に繋がる。自己表現や意見交流の機会を充実させてほしい。

2. ICTの効果的な活用

- ・google スライド、Jamboard、オンラインクイズアプリの使用など様々な活動が見られた。
- ・ICT 端末を生徒がいかに使うかのフェーズに入っている。ICT はあくまでツールである。ICT 活用スキルを授業内で育成し、適切に活用することで生徒の興味・関心の喚起、指導の効率化、思考の可視化、効果的な発表、協同的なやりとりの促進に繋がっていききたい。
- ・アイディア等情報交換しながら活用のバリエーションを増やしてほしい。

3. 授業のユニバーサル化

- ・ユニバーサルデザインの視点に立った授業とは、「特別な支援が必要な生徒にとってはないと困る、他の生徒にはあると便利で役に立つ」という支援を含んだ授業。全ての生徒にとって「楽しい、分かる、できる」授業が実現できる。
- ・授業のレベルを下げるのではなく、刺激量の調整して今やるべき事に集中させたり、選択肢を取り入れたり、話し合いを取り入れたり、視覚的支援を取り入れたりして、どの生徒もゴールにたどり着けるようにすることがねらい。
- ・キーワードは「焦点化、視覚化、共有化」である。

国語科 現代文B 学習指導案

実施日時：令和5年1月17日（火）1校時

クラス：3年ビジネスコース（男子18名、女子6名）

使用教科書：新編現代文B（東京書籍）

授業者：藤島 知歩

1. 単元名 限られた文字数で自分の思いや情景をわかりやすく表現する

2. 教材名 4 詩歌

3. 単元の目標

- (1) 俳句や短歌の特徴を踏まえて表現しようとする。（関心・意欲・態度）
- (2) クラスメイトの詠んだ作品を読み、詠み手の意図や情景、心情描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとする。（読む能力）
- (3) 文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てようとする。（知識・理解）

4. 単元と生徒

男子生徒が多く全体的に活発な雰囲気で、自分の意見を素直に述べる生徒が授業の雰囲気作りを担っている。創作活動には意欲的な生徒も多いため、文体や修辞などの表現上の特色を踏まえ、彼らの素直な気持ちを俳句や短歌で表現させたい。そのため、伊藤園が実施している「新俳句」も取り入れ、季語や文字数にあまりこだわらずに詠むことを取り入れた。また、自分が育ってきた地域や学校のことを振り返らせる機会にしたいと思い、テーマ設定を工夫した。

5. 指導と評価の計画

- 1. 俳句・川柳・短歌の基礎知識や代表的な俳人の作品について理解を深める。 …1時間
- 2. 「ふるさと」をテーマに詠む。俳句や短歌を詠む。 …1時間
- 3. 「ふるさと」をテーマとした作品について相互に鑑賞する。 …1時間（本時 1／1）
- 4. 「卒業句集」作成に向けて俳句・新俳句・短歌を詠む …2時間

6. 単元の評価規準

関心・意欲・態度 (A)	読む能力 (B)	知識・理解 (C)
俳句や短歌の特徴を踏まえて表現しようとしている。	クラスメイトの詠んだ作品を読み、詠み手の意図や情景、心情描写などを的確にとらえ、表現を味わおうとしている。	文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てている。

7. 本時の計画（本時 3／5）

(1) 目標

作品を相互評価することにより、限られた文字数でわかりやすく情景や心情を表現するために必要なことは何かを考える。（読む能力）

(2) 学習の過程

過程	学習活動	指導・支援上の留意点	評価規準【方法】
導入 (5)	本時の流れを確認		
展開 (40)	本時の目標 限られた文字数で、わかりやすく伝えるためには何が必要かを考える。 配布された評価シートについての説明を聞き、自分が詠んだ俳句について評価ポイントを押さえているか確認する。(5) 【相互評価】 ペアを組み、「俳句」のみを発表しあう。→俳句の評価ポイントa～eについて相互評価する。(3) どのような情景を詠んだのかを互いに説明し、fについて評価する。(5) 互いに感想を述べ合う。(2) 「新俳句」「短歌」についてもペアを変えながら同様に評価し合う。(15) 限られた文字数で、情景や心情をわかりやすく詠むために必要なことを考え、発表する。(10)	評価シートを配布する。 評価の仕方について説明する。 評価を先取りしないよう、助言する。 わかりやすく説明するよう、助言する。 具体的に感想を述べるよう、助言する。 高評価を得た作品を紹介したり、相互評価した感想を振り返ったりして課題について考えるよう助言する。	互いの作品を適切に評価している。(B) 【ワークシート】 わかりやすく伝えるために何が必要かを考えている。(B) 【ワークシート】
まとめ (5)	振り返りシートに記入する。	最後に、次回以降の授業について連絡する。	

地歴公民科「日本史B」学習指導案

実施日時 令和4年9月12日(月) 4校時 3年総合教室 3年総合コース日本史B選択5名
 使用教科書 高校日本史B(実教出版)、最新日本史図表(第一学習社)
 授業者 田村 七海

- 1 単 元 名 第7章 大日本帝国の形成 3節 明治維新と新政府の成立
 2 単 元 の 目 標 開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治政府による近代化の推進過程について考察させる。
 3 単 元 と 生 徒 開国、幕府滅亡、明治維新と展開がめまぐるしく変化する中で、時代や主体をとらえて学習することに苦手意識をもっている。時代の転換期に郷土がどのように関わっているかを知ること、学習への関心を高めたい。

4 指導と評価の計画

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 1 開国と社会の変動(1時間) | 2 尊王攘夷から倒幕へ(1時間) |
| 3 明治維新と新政府の成立(2時間) 本時1時間目 | 4 文明開化と復古(1時間) |
| 5 地租改正と富国強兵(1時間) | 6 アジア外交と国境問題(1時間) |
| 7 民権思想と国会開設運動(1時間) | 8 私擬憲法と政党の結成(1時間) |
| 9 松方財政と民権運動の激化(1時間) | 10 大日本帝国憲法の制定(1時間) |

5 評価規準

A 意欲・関心・態度	B 思考・判断・表現	C 資料活用・技能	D 知識・理解
開国から明治維新以降の近代化の推進過程について関心を持ち理解しようとしている。	開国以降の動乱や立憲政体樹立に至る過程について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	諸資料を活用して、情報を読み取ったり、調べたりすることができる。	開国から明治維新以降の近代化の推進過程について知り、理解することができる。

6 本時の計画

(1) 目 標 秋田県民歌から秋田(久保田)藩の戊辰戦争での立場を考察することができる。

(2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 10分	・秋田県民歌を聴いて、3番はどんなことを歌っているのか予想する。	・後で調べられるように、わからない語句に印をつけさせる。	
展開 35分	・本時の目標を提示する。 秋田県民歌から秋田(久保田)藩の戊辰戦争での立場を読み解こう ・戊辰戦争の一連の流れを確認する。 ・Chromebookを使って秋田県民歌の歌詞に出てくる語句の意味について調べる。 ・秋田藩の立場を考察して発表する。 ・戊辰戦争における南部藩の動向から、秋田藩との立場の違いを理解する。	・戊辰戦争が日本列島を縦断するように展開していること、秋田県も戦場に含まれていることに気づかせる。 ・考察のヒントになるように、平田篤胤と佐藤信淵の人物像を補足する。 ・鹿角小坂地域の一部は南部藩に属していたこともあり、秋田藩とは敵対する立場であったこと、県民歌の歌詞とは異なる結果であったことを確認する。	・関心を持って話を聞くことができる。(A) ・調べたことを活用して秋田藩の立場を述べることができる。(B)(C)
まとめ 5分	・戊辰戦争と秋田藩の関わりをふりかえり、本時の感想を発表する。		

数学科「数学Ⅰ」学習指導案

実施日時 令和5年3月9日(木) 2校時 1年B組 15名(男子6名、女子9名)

使用教科書 新編 数学Ⅰ(数研出版)

授業者 佐々木 大輔、寺田 尚志

- 1 単 元 名 第5章「データの分析」 5 データの相関
- 2 単 元 の 目 標 統計の基本的な考え方を理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにする。
- 3 単 元 と 生 徒 数学を身近なものに感じることができない生徒も多いことから、生徒にとって身近な題材である鹿角市の統計データを用いることで、生徒に興味・関心を持たせたい。また、鹿角市のオープンデータに触れることで、ふるさと教育「かづの学」での活用につなげたい。
- 4 指導と評価の計画
 - 1 データの整理 (1時間)
 - 2 データの代表値 (1時間)
 - 3 データの散らばりと四分位数 (3時間)
 - 4 分散と標準偏差 (2時間)
 - 5 2つの変量の間関係 (2時間) 本時2時間目
 - 6 仮説検定の考え方 (2時間)

5 評価規 準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
散布図及び相関係数などの意味を理解し、散布図を描いたり、相関係数を求めたりすることができる。	散布図及び相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。	散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それを事象の考察に活用しようとしている。

6 本 時 の 計 画

(1) 目 標 散布図を作成し、データの相関関係を読み取ることができる。

(2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価規 準【方法】
導 入 10 分	学習課題 データ(*)から、複数のデータの相関関係の有無について予想し見通しを持つ。	・2つのデータの関連性を調べるために「散布図」が活用できることを生徒から引き出す。 ・配付したデータを黒板に掲示し、本時の流れを説明する。	・教師の話の聞くことができる。【C】
	データ(*)：平成7年から平成27年の「農業産出額の推移」の特定の種目の産出額と「農家人口の推移」(鹿角市オープンデータより)		
展 開 35 分	【グループ活動】 ① どのデータを用いるか決める。 ② 散布図を作成してみる。 ③ 作成した資料について、自分達の考えをまとめる。 【全体活動】 ④ 各グループで作成した散布図を掲示し、全員で見合う。 【グループ活動】 ⑤ 最初のグループに戻り、活動のまとめを行う。	・選択するデータが重ならないように配慮する。 ・グループ内で役割分担させ、協力して作業を進めるよう声かけする。 ・各班の散布図をみて、散布図から読み取れることや感想などを付箋で残すよう促す。 ・付箋に書かれた意見を踏まえて、文章化させる。	・散布図を作成することができる。【A】 ・散布図に適した意見を付箋に書き込むことができる。【B】 ・授業に基づいて意見を述べるができる。【B】
整 理 5 分	散布図の有用性について全体で確認する。	・グループでまとめたことを発表させる。	

理科「生物基礎」学習指導案

実施日時 2月1日(水) 1校時 1年A組教室 生徒16名(男子6名、女子10名)
 使用教科書 高等学校新編生物基礎(数研出版)
 授業者 櫻庭 洋

- 1 単元名 第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 1 植生とその成りたち
- 2 単元の目標 植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解することができる。
また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる
- 3 単元と生徒 単元は自然環境における植生とそれを決定する相観及び優占種に関わる内容であり、身近に雄大な自然のある本校の生徒にとっては非常に興味を持ちやすい学習内容である。
クラスは全体的におとなしい生徒が多いものの、発言させると挙手して積極的に発言することができる者も複数いる。学習に向かう姿勢は非常に真面目で与えられた課題を協力しながら完成しようとする姿が見られる。
- 4 指導と評価の計画
 - 1 植生とその成りたち 2時間(本時2/2)
 - 2 植生の遷移 1時間
 - 3 植生の再生 1時間

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
いろいろな植生とその特徴を答えることができる。	遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、問いに答えることができる。	植生と遷移に関心を持ち、主体的に学習に取り組み、ノートにまとめることができる。

5 本時の計画

- (1) 目標 秋田県に見られる森林の優占種について調べ、グループごとに発表することができる。
- (2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【方法】
導入 5分	【本時の学習内容の確認】 ・本時の進め方について確認する。	・本時の段取りを簡潔に説明し、発表シートの作成に時間を確保する。	・教師の話聞くことができる。[C]
展開 40分	本時の目標「秋田県に見られる森林の優占種について調べ、グループごとに発表することができる」 【グループ毎の学び合い】 ・インターネット、教科書、資料集等を利用して十和田八幡平国立公園や白神山地の優占種について調査する。また、その保全活動として行われている事業等についても調査する。 ・調査結果についてグループ内で情報共有する。 ・Jamboardを活用してフレーム1枚にまとめる。 【クラス全体での学び合い】 ・Jamboard上でまとめたフレームを電子黒板に表示して他のグループに発表する。 ・発表した内容について質疑を行い、さらに理解を深める。	・できるだけ生徒が自分たちの力でデータを集め、学び合いを進められるように解答を誘導しすぎない。 ・生徒が自分の言葉で説明するように配慮する。 ・質疑において、回答が単語ではなく文章で答えるよう配慮する。	・積極的に調べ学習に取り組むことができる。[C] ・わかりやすい言葉で説明することができる。[B]
まとめ 5分	・本時の内容の振り返りを行う。	・発表したグループの内容を簡潔にまとめ、必要に応じて内容を補足する。	

保健体育科「保健」学習指導案

実施日時：令和5年1月18日（水） 2年総合コース21名（男子6名、女子15名）

使用教科書：最新高等学校保健体育

授業者：神居 恵悟

1 単 元 名 社会生活と健康（ごみの処理と上下水道の整備）

2 単 元 の 目 標 上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物の処理などの環境衛生活動は、自然や学校、地域などの社会生活における環境と健康を守るために行われていることを理解できるようにする。また、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連づけて理解できるようにする。

3 単 元 と 生 徒 意欲が高く、課題に対して主体的に考え、行動できる生徒が多いクラスである。鹿角市の生活に関わる題材を扱ってグループ学習を行うことで、互いに意見を出し合いながら考えを共有し、思考を深めつつ、実生活での実践につなげたい。

4 単元の評価規準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 知識・理解
健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心をもち、学習に意欲的に取り組もうとしている。	健康を保持増進するための課題の解決を目指して知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的に事項を理解している。

5 本 時 の 計 画

(1) 題 材 名 ごみの処理と上下水道の整備

(2) 本 時 の 目 標 安全を守るためのごみ処理について、仕組みと課題について説明できる。

(3) 学 習 の 過 程 【評価の観点・・・ A：関心・意欲・態度 B思考・判断 C知識・理解】

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
導 入 5 分	あいさつ 前時の振り返り		
	本時の目標「安全を守るためのごみ処理について、仕組みと課題について説明できる。」		
	発問「鹿角市の決まりで10種のごみを分別してみよう」		
展 開 35 分	・班に分かれ、鹿角の決まりに従ってごみを分別する(Jamboard) ・ごみの分別の種類について、分け方と処理のされ方、課題について学ぶ。	・各班のボードを電子黒板で共有し、迷った部分について根拠を含めて発表させることで考えを深めさせる。 ・フローチャートや埋め立て地の地図を示しながら、生活とリンクさせる。	
ま と め 7 分	・本時の内容まとめ振り返りワーク	・ワークシートを用いて、ごみ処理の仕組みをまとめ、課題について考えさせる。	・ごみの分別と処理について、環境の保全のための仕組みと課題が理解できている。(C ワークシート)

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

実施日時：令和4年4月12日（火）1校時

対象生徒：1年A組 音楽選択者5名（女子5名）

場 所：音楽室

教科書：『ON!1』（音楽之友社）

授業者：関 学

1. 単 元 名 歌唱『ふるさとの歌』『日本の歌』

2. 単 元 の 目 標 校歌、秋田県民歌を歌唱できるようにする。その過程において曲の作者がいかに鹿角に関わったかを学習し、生まれ育ったふるさとを愛する心情、ふるさとを誇りと思う感情を身につける。

3. 単 元 と 生 徒 生徒は皆、真面目な態度で学習に臨むが、人前で発言したり表現することを苦手としている。ここでは教材の作者がいかに鹿角に関わったかを知ること、作者の思いを盛り込んだ工夫ある表現と積極的な発声ができるようにさせたい。

4. 指導と評価の計画

- 1 「校歌」「秋田県民歌」歌唱指導（1時間）
- 2 作詞・作曲者の調べ学習と鑑賞（2時間）本時1時間目
- 3 「校歌」「秋田県民歌」表現の工夫（2時間）

5. 評 価 規 準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
曲想や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱ができる。	自己のイメージを持って創意工夫した歌唱表現ができる。	主体的・協働的に学習活動ができる。

6. 本 時 の 計 画

- (1) 本時の目標
- 教材の作詞・作曲者についての知識を蓄え、作品に込めた思いを知る。
 - 表現の工夫を考える。

(2) 学習の過程

時 間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導 入 6 分	本時の流れ・目標確認 【歌唱】 「校歌」「秋田県民歌」 自分なりに未完成だと思われる部分、歌詞やメロディ・ラインなど表現できていないところをしっかりと確認しよう。	自分の歌唱の完成度を確認しながら歌わせる。	表現のできていない箇所を確認する、完成度を高めるという目的を持った発声がなされているか。【A】
展 開 3 4 分	【鑑賞】 「校歌」の作詞者・作曲者について学習したのち、作曲者下総皖一の「たなばたさま」を鑑賞。 「秋田県民歌」の作曲者成田為三について、関連番組の録画映像を鑑賞して学習。	「校歌」の作詞者・白鳥省吾の経歴、校歌の詞を作るために鹿角を訪れたことに興味を持たせる。 「校歌」の作曲者・下総皖一の経歴、秋田で教鞭を執った時期があることに興味を持たせる。 - 作曲者が秋田県出身で、しかも若いときに鹿角の小学校で一時期教鞭を執ったこと、「浜辺の歌」が世界的に有名であることなどに興味を持たせる。	- プリントにポイントとなることを考えてメモしているか。【A】 - 集中して映像や音楽を鑑賞できているか。【C】
まとめ 1 0 分	【歌唱】 「校歌」「秋田県民歌」の歌詞を確認して歌唱。	歌詞の意味を理解させ、イメージを持って歌唱させる。	

外国語（英語）「コミュニケーション英語Ⅱ」学習指導案

実施日時 令和4年10月28日(金) 3校時 3年総合教室 生徒11名
 使用教科書 Grove English Communication Ⅱ (文英堂)
 授業者 木村 由美

1 単元名 Lesson 6 Iceland

2 単元の目標

アイスランドの自然の中で工夫しながら生活している人々の様子を知り、日本や地元鹿角市の生活様式との相違点を見つけながら読む。

3 単元と生徒

アイスランドの地域的環境や人々の生活様式を通して、ALTとの授業も活用しながら、異なる文化への理解を深める。また、寒い気候や温泉など、鹿角地域と共通点が多いことに気づかせ、その気づきをもとに地元地域の魅力について調べ、まとめ、発表する機会を設定する

生徒については、授業に対する姿勢はおおむね良好で、前向きに英語学習に取り組んでいる。内容読解だけでなく音読や発音練習、文法演習などにも意欲的に取り組むことができる。

4 指導と評価の計画

導入（1時間）内容理解、文法演習（8時間）調査、まとめ（1時間）発表、まとめ（1時間：本時）

A コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B 外国語表現の能力	C 外国語理解の能力	D 言語や文化についての知識・理解
- 協力して作業することができる。 - 調べた内容を分かりやすく伝えようと工夫することができる。	本文中に出てきた倍数や分数を使って、鹿角地域にある事物について書いたり話したりすることができる。	発表を聞いて内容を箇条書きでまとめることができる。	アイスランドの地域特性と生活様式を理解することができる。

5 本時の計画

(1) 目標 各班がまとめた鹿角市の魅力やアイスランドとの相違点についての発表を聞いて、それぞれ発表内容を箇条書きでまとめることができる。

(2) 学習の過程

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
導入 15分	各班に分かれて原稿を読みあい、発音や内容を確認する。	- 各班を回って、発音に不安なところがないか声をかける。 - できるだけ原稿を見ないで話せるようになっているか確認する。	
展開 25分	- 本時の目標を提示する。 鹿角市の魅力やアイスランドとの相違点についてまとめよう 1番目のグループの生徒たちがそれぞれ他のグループを担当し、自分たちの調査内容を発表する。聞いている生徒は内容を箇条書きでワークシートにまとめる。 - 以下同様に全てのグループが順番に発表する。	- 必要があれば、声の大きさや速度などアドバイスする。 - ワークシートのまとめ方に不足があれば助言を与える。	各班の発表内容を適切にまとめることができる。 [C外国語理解の能力]【共働作業観察、シート点検】
まとめ 10分	ワークシートにまとめた内容を黒板に書かせて確認する。	ワークシートを提出するよう指示する。	

家庭科「家庭課題研究」学習指導案

実施日時：10月18日（火）4校時

対象生徒：2年B組ビジネスコース 17名（男子4名、女子13名）

場 所：2年B組教室

副教材：家庭科55GO!GO!資料集

授業者：能島 直美

1 単 元 名 秋田の魅力

2 単元の目標 秋田県の特産物、伝統文化、名所等について調べ、調べたことを伝え合い、秋田の魅力を再確認する。

3 単元と生徒 自分の意見や考えを伝え合うことができ、意欲的に授業に臨んでいる。家庭課題研究は、様々な分野の学習を行うことができ、興味・関心を高めて授業に取り組む生徒が多い。

4 指導と評価の計画（2時間）

1 秋田の魅力を調査、伝達（本時1／3）

2 秋田の魅力のクイズ作成

3 秋田の魅力の確認

関心・意欲・態度 [A]	思考・判断・表現 [B]	技能 [C]	知識・理解 [D]
秋田の魅力に興味を持ち、Chromebookを活用して調査し、郷土への関心を高めることができる。	秋田の魅力が伝わるように工夫して、表現することができる。	秋田の魅力について、多くの情報の中から、適するものを選び、問題を作成することができる。	秋田の魅力を理解し、相手に伝えることを通して、郷土についての理解を深めることができる。

5 本時の計画

(1) ねらい 秋田の魅力ある食べ物、場所、伝統工芸品について、資料を見て具体的な特徴を書き出し、調査したことを伝えることで理解を深める。

(2) 展 開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
導入 5分	・ 本時の目標を知る。	・ 本時の目標、学習方法を説明する。	
	【本時の目標】秋田の魅力ある食べ物、場所、伝統工芸品について、資料を見て具体的な特徴を書き出し、調査したことを伝えることで理解を深める。		
展開 40分	・ 秋田の魅力ある食べ物、場所、伝統工芸品を確認する。 ・ ジグソー学習の説明 ・ グループ① ・ グループ②	・ 県北地区以外のものを取り上げ、プリントに記載し、簡単に説明をする。 ・ ジグソー学習で、グループ①は4班に分かれて、同じ内容を調査し、その後、グループ②で具体的な特徴を伝え合うことを説明する。 ・ 机間巡視を行い、個々にアドバイスをする。 ・ 相手に伝わるように話したり、動画を活用したりするなど、工夫をするよう声かけをする。	・ 秋田の魅力を意欲的に調査することができる。 [A] ・ 相手に伝わるように工夫して発表することができる。 [B]
まとめ 5分	・ 振り返りシートに記入する。	・ 印象に残ったこと等をまとめる。 ・ 学習の振り返りを1人に発表させる。	・ 秋田の魅力を理解することができる。 [D]

情報科「情報Ⅰ」学習指導案

実施日時：令和4年11月4日（金）5校時
 対象生徒：1年A組 16名（男子6名 女子10名）
 場所：ITルーム
 教科書：『最新 情報Ⅰ』（実教出版）
 授業者：渡邊 一郎

1. 単元名 第2章 メディアとデザイン 3 情報デザインの実践

2. 単元の目標 情報伝達の目的に沿うような報告書やレポートなどを作成するための工夫を凝らす事ができ、限られた時間内に自分の意図を相手に伝えるコミュニケーションの形態について学び、分かり易くかつ説得力のあるスライド(プレゼン資料)づくりに取り組み発表ができるようにする。

3. 単元と生徒 学習に対しては真面目な態度で臨む生徒は多いが、人前で発言したり表現することを苦手とする者が多い。ここでは情報を伝達する手段としての文書構成であったりプレゼン技能を学ぶことで、ふるさと教育かつの学の発表場面に生かせるように取り組ませたい。

4. 指導と評価の計画

1 文書の作成	(1時間)
2 プレゼンテーション	(5時間) 本時4時間目
3 Webページ	(2時間)

5. 評価規準

A知識・技能	B思考・判断・表現	C主体的に学習に取り組む態度
プレゼンにおける目的の明確化、対象の分析、伝達内容の整理と技法について理解し、プレゼンを効果的に進めるための資料作りをすることができる。	リハーサルを通して、プレゼン資料の内容が伝えたい事で構成されているか、伝える順番はよいかなどを検証できる。	プレゼンのためにグループメンバーと協力し、互いに意見交換をしようとしている。

6. 本時の計画

(1) 本時の目標 プレゼン資料を基にリハーサルを実行し、修正を加えることができる。

(2) 学習の過程

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準【方法】
導入 3分	本時の流れ・目標確認 プレゼン発表に備えリハーサルを行い、PDCAサイクルに従って問題点を見つけ、修正できるよう意見調整をし、より良い発表になる準備をしましょう。	・学習手順と流れ、注意点を確認する。	・顔を上げて話を聞くことができる。 【C】
展開 44分	「一番伝えたい事は何か」についてプレゼン資料ができているかみんなの目で確認してみよう。 【グループ活動】 1. プランニングシートを再度確認 2. 本番を想定したりリハーサルの実践 3. 評価に基づく検証 4. プレゼン資料の修正 5. 再度リハーサル	・プランニングシートを再確認させる事で、当初の目的から外れていないかを確かめさせる。 ・時間・声の抑揚・態度・強調ポイントなどについてチェックシートを活用させ実践させる。 ・情報の受け手側の立場に立った感想から修正点を見つけ話し合う。	・目的に沿った資料作りができる。 【A】 ・本番を意識したりリハーサルができる。 【C】 ・修正点について活発な意見交換ができ、検証することができる。 【B】
まとめ 3分	振り返りシートの記入	・本時の学習活動を振り返らせ、自己評価をさせる。	

編集後記

「生徒が主体的に活動し、学んだことや得たことを活用して自分の思いや意見を伝え合えるような、達成感のある分かりやすい授業づくりを推進する。」を課題として設定し、効果的な指示や思考が深められるような発問等の工夫や、教科の特性に応じた有効な I C T 活用に努めてきた。

9 年目となったふるさと教育「かづの学」では郷土に対する理解を深め、それを生徒自身の工夫を生かして発言したり表現したりする場面も設定された。1 年間の集大成となるこの研修集録が、皆様の今後の教育活動に御活用いただければ幸いである。

今回の研修集録作成にあたり、原稿依頼を引き受けてくださった先生方に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

令和 4 年度 研修集録 第 3 0 号

発行日 令和 5 年 3 月 3 1 日

発 行 秋田県立十和田高等学校

電話 0 1 8 6 - 3 5 - 2 0 6 2

FAX 0 1 8 6 - 3 5 - 2 2 7 2